

実地研修評価票：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引(通常手順)

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおりに実施できている。
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。
	ウ 評価項目を抜かした。(手順どおりに実施できなかった。)

研修受講者	受講番号	
	氏名	
本票ページ数		/

回数 ※()内に演習の実施回数を記入すること。	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日 ※演習を実施した月日を記入すること。	/	/	/	/	/
実地研修協力者番号 ※受講決定後提出書類一覧表の番号と同一の数字を記入					
時間 ※研修開始時間記入すること。					
時間 ※研修終了時間を記入すること。					

実施手順	評価項目	評価結果				
STEP4： 準備	1 医師の指示等の確認を行う					
	2 手洗いを行う					
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する					
	4 必要物品を利用者（実地研修協力者）のもとに運ぶ					
STEP5： 実施	5 利用者に吸引の説明をする					
	6 吸引の環境・利用者の姿勢を整える					
	7 気管カニューレ周囲や固定の状態を観察する					
	8 手袋の着用またはセッシを持つ					
	9 吸引チューブを清潔に取り出す					
	10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する					
	11 (浸漬法の場合)吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く					
	12 吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する					
	13 吸引チューブ先端の水をよく切る					
	14 利用者に吸引開始について声かけを行う					
	15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する					
	16 適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する					
	17 吸引チューブを静かに抜く					
	18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く					
19 滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす						
20 吸引器の電源を切る						
21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する						
22 手袋をはずす(手袋を着用している場合)またはセッシを戻す						
23 利用者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える						
24 吸引物及び利用者の状態を観察する						
25 利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する						
26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する(経鼻経管栄養実施者のみ)						
27 手洗いをする						
STEP6： 報告	28 吸引物及び利用者の状態を報告する					
	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する(経鼻経管栄養実施者のみ)					
	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)					
STEP7： 片付け	31 吸引びんの排液量が70%~80%になる前に排液を捨てる					
	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する					
STEP8： 記録	33 実施記録を記載する					
アの個数 計						
指導看護師のサインまたは印鑑						

※気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。

自由記載欄

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	